ANNUAL REPORT

2022年度 活動報告書

Rural Innovation Lab KOBE UNIVERSITY TAMBASASAYAMA

神戸大学・丹波篠山市
農村イノベーションラボ

TAMBASASAYAMA FIELDSTATION
丹波篠山フィールドステーション

農村の未来を創る「地」と「知」の拠点

神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ＋丹波篠山フィールドステーションは、農村地域の課題解決と発展のため、現場発のイノベーション、地域に根ざした教育と研究、地域の人材育成に取り組む拠点です。2007年に締結された神戸大学と丹波篠山市との地域連携協定のもと、神戸大学大学院農学研究科地域連携センターが中心となり運営しています。

丹波篠山には、戦後、神戸大学農学部の前身である兵庫農科大学が設立され、1966年の国立移管までの間、多くの学生や研究者が学び、研究してきました。その後、当時を知る人々が少なくなる中で改めて関係性を再構築し、「地」と「知」の発展のため、連携して活動をおこなうこととしました。

その活動の一環として、丹波篠山フィールドステーションの開設、大学生が農家に学ぶ実践農学入門や専門知識を活かし現場で実践する実践農学などの「食農コープ教育プログラム」の開講とともに、さまざまな共同研究やプロジェクトが進められてきました。2014年からは、地域人材育成の一つとして、大学生・大学院生が丹波篠山に住みながら自身の専門知を活かし地域の課題解決を目指す「半学半域」型の地域おこし協力隊制度を導入しました。現在では起業を目指す社会人にも門戸を開き、地域資源を活用して受入地域の課題解決を目指す「起業支援型」にも展開しています。また、「食農コープ教育プログラム」をきっかけとして、学生が自主的に学生団体を結成し、地域の課題解決や地域住民との交流活動をおこなっており、10年以上活動をつづける団体もあります。そうした活動蓄積の上での新たな取り組みが、2016年にJR篠山口駅構内に開設した神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボです。

さらに、これらの活動をより広く多様な連携につなげて持続的に発展させるために、2022年1月に、一般社団法人 EKILAB. を再編して、一般社団法人丹波篠山キャピタルを設立しました。これからも地域に根ざしたビジネスづくり、地域でのチャレンジの支援をおこなうとともに、新しい農村社会像を描くような、価値創造的で実践的な研究に取り組んでいきます。

地域連携を支える3つの取り組み

1 地域創造研究

農村地域の課題解決を目指し、新しい価値を生み出すような研究をおこないます。また、自主共同研究の実施、および研究者等が丹波篠山市で実施する調査研究の支援を通じて、現場とともに社会実験を進め、他地域へ展開可能な地域課題の解決および地域のより良い発展を目指します。

丹波篠山で実践されている研究の多くは学会だけでなく、市民に向けても広く発表しています。

2 地域人材育成

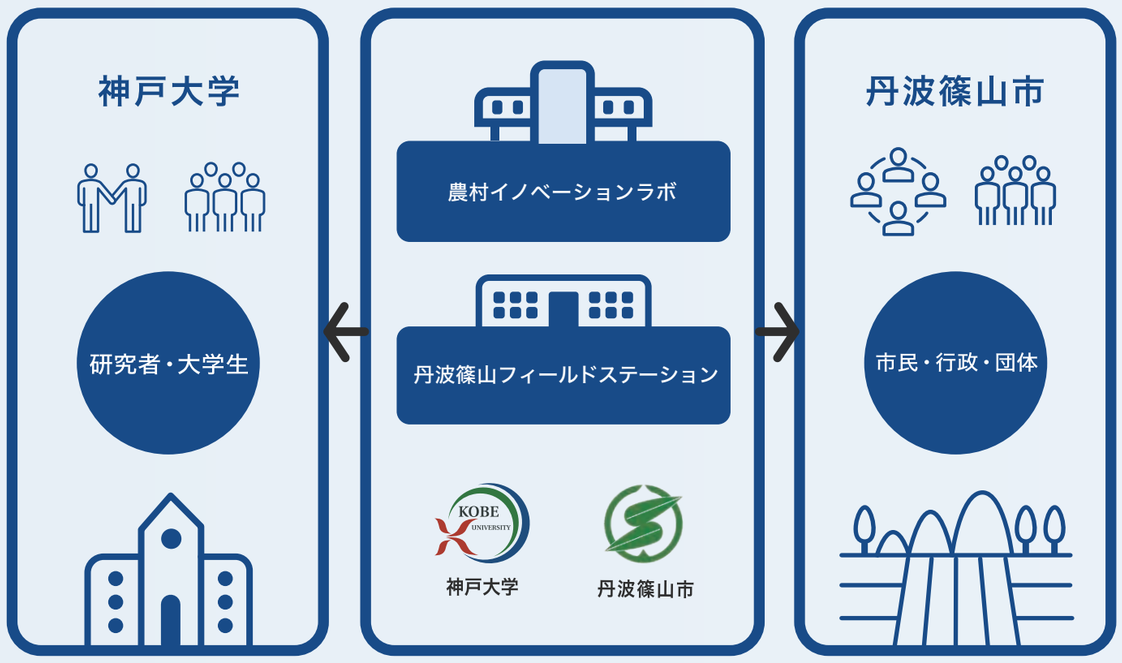
丹波篠山や農山村地域を舞台に活躍する学生や若手実践者など、地域発展と課題解決を目指したイノベーターたちの学びや挑戦、成長をサポートします。「食農コープ教育プログラム（大学生向け）」や「篠山イノベーターズスクール（社会人向け）」など、地域に根ざした実践的な学習プログラムを企画支援します。

大学生から社会人まで、農村を舞台にした多様な人材育成プログラムを実践しています。

3 活動・情報支援

さまざまな立場の人々のネットワークづくりを支援し、地域情報の共有と創造を進めます。各種ワークショップやセミナーなどを開催するとともに、地域づくり活動、政策についてのアドバイスやサポートもおこないます。

各種の成果発表会やセミナーなどを通じて大学の取組や事業を公開しています。



プロジェクトスタッフ

大学研究者をはじめ、若手研究者や実践家など分野を問わず多様なスタッフが運営しています

田中丸 治哉
リーダー
神戸大学大学院
農学研究科 教授

中塚 雅也
ディレクター
神戸大学大学院
農学研究科 教授

清水 夏樹
サブディレクター
神戸大学大学院
農学研究科 特命准教授

谷川 智穂
（一社）丹波篠山キャピタル
事務局長 / 協働支援統括

谷垣 友里
（一社）丹波篠山キャピタル
地域おこし協力隊
チーフコーディネーター

瀬戸 大喜
（一社）丹波篠山キャピタル
人材活用統括

鎌田 悠子
（一社）丹波篠山キャピタル
篠山イノベーターズスクール
チーフコーディネーター

神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ
〒669-2212 兵庫県丹波篠山市大沢165-3
Phone/Fax. 079-506-6628
https://tscapital.jp
info@tscapital.jp

丹波篠山フィールドステーション
〒669-2324 兵庫県丹波篠山市東新町4-5
Phone/Fax. 079-506-2366
https://sasayamalab.jp
fs@tscapital.jp

sasayamaXkobe.univ

まち・ひと・しごとの創造的な循環を生み出す

1 地域創造研究

兵庫県丹波篠山市に連続分布するニホンザル群の農地利用の季節性

清野 未恵子（神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授）

丹波篠山市にはニホンザルが５群生息し、2013年から継続して位置情報が収集されている。蓄積した位置情報から各群の土地利用傾向（農地や森林の利用頻度）を把握し、被害対策のモニタリングに活用することができる。今回の分析から、農地利用には年変動があり、月ごとでも農地を利用する割合が変化し、いくつかの群れでその傾向がシンクロしていることがわかった。

KEYWORD ニホンザル, 採食生態, 地域個体群, 農地依存度把握

篠山城跡南堀のハス復活事業モニタリング調査

鈴木 武志（神戸大学大学院農学研究科助教）

2005年に篠山城南堀で蓮が枯死した原因を明らかにし、2018年に再生・開花した。現在は南堀一面での再生時期を予測し（2023年秋）、維持できるようにモニタリング中である。

KEYWORD 篠山城蓮, 蓮一斉枯死, 侵略的外来種

地域食文化の継承発展における移住起業者の役割

岡久 花衣（神戸大学大学院農学研究科学生）
中塚 雅也（神戸大学大学院農学研究科教授）

食文化の継承・発展が課題となっている丹波篠山市において、食に関わる事業をおこなう移住者に対して、地域での情報収集や、食材・調理法の利活用、住民との協働活動について聞き取り調査を実施し、地域の食文化の継承・発展に移住起業者が果たしている役割を明らかにした。

KEYWORD 伝統食, ネットワーク, 地域おこし協力隊

地域づくり人材育成に向けた地域分析

中塚 雅也（神戸大学大学院農学研究科教授）
清水 夏樹（神戸大学大学院農学研究科特命准教授）

篠山イノベーターズスクールや地域おこし協力隊コーディネートなど、丹波篠山市と神戸大学の地域連携事業を持続的に担う法人として丹波篠山キャピタルを設立・運営し、地域内外の人材育成の仕組みを構築するとともに、人材育成を促す地域の社会経済条件について分析を進めた。

KEYWORD 篠山イノベーターズスクール, 起業・継業, 丹波篠山キャピタル

データ収集方法によるニホンザル加害群の遊動域推定の違い

清野 未恵子（神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授）

丹波篠山市では、ニホンザルの被害対策の一環でサル監視員制度を設けている。サル監視員は、ニホンザルの位置情報を収集し、そのデータは被害対策の推進やモニタリングに有効であるが、位置情報の正確さが肝要である。そこでサル監視員のデータとGPSデータで行動圏を比較したところ、ほぼ相違がないことが確認され、被害管理におけるサル監視員の役割を検討する上で重要な知見を得た。

KEYWORD GPS, サル監視員, 誘導域（行動権）把握, 保全管理

持続的な集落機能維持に向けた地域づくり戦略に関する研究（ワクワク農村未来プランモデルプロジェクト）

清水 夏樹（神戸大学大学院農学研究科特命准教授）

丹波篠山市の主要プロジェクトとして取り組まれている12のモデル地区・地域の「ワクワクする」取り組みに即したアイデア出しや合意形成方法を試行し、住民や行政、関係人口の参画・支援のあり方や継続発展の方策を検討した。

KEYWORD 集落機能, 担い手, 関係人口

農山村における移住者起業の集積要因と構造

谷川 智穂（神戸大学大学院農学研究科学生）
中塚 雅也（神戸大学大学院農学研究科教授）

近年、丹波篠山市内では、移住者による起業が増加している。本研究ではGISを用い、空間的（交通アクセス・人口・土地利用区分・市街地からの距離を指標）な側面から、市内の移住者起業の立地条件を分析した。また、ゆるやかな移住者起業の集積が見られた福住地区でヒアリングを行い、同地区が選択された要因を明らかにした。

KEYWORD 農村移住, 田園回帰, 起業, 集積, 空間分析

兵庫県丹波篠山市における市史編纂事業のための研究と検討

奥村 弘　（神戸大学大学院人文学研究科教授）
松本 充弘（神戸大学大学院人文学研究科特命助教）

1999年の旧4町合併以降では初となる、市域全体を対象とする自治体史の編さんを目指す。そのために住民・行政と連携し、歴史資料の所在調査に取り組む。調査成果は市史編さん委員会などで共有するとともに、展示や報告会などを通じて住民にも速報する。さらに編さん後を見据え、市民が主体となった地域歴史遺産の保全・活用を追求する。

KEYWORD 丹波篠山市史, 地域社会, 地域歴史資料

丹波篠山市内の圃場毎営農状況の自動判別法の開発

長野 宇規（神戸大学大学院農学研究科准教授）

合成開口レーダ画像を用いた農地の逐次判別により、丹波篠山市内において20a以上の農地について水稲、大豆、耕作放棄地の判別が可能となった。

KEYWORD 農地土地利用, リモートセンシング, 耕作放棄, 地域計画

新しい特産品づくりに関する研究 ー香りヤマナシの加工品の試作ー

片山 寛則（神戸大学大学院農学研究科准教授）

順調に収穫量が増加してきたヤマナシの商品化を目指して、果実の長期保存を可能にする冷凍保存法やジャム、シロップ、ジェリーの加工法の検討を真南條地区の共同作業所「村の駅」にておこなった。冷凍保存による果実果皮の褐変障害が見られたが果肉については加工品への利用が可能であることが判った。また「やまなしシロップ」について商品化が可能な品質であることが確認できた。最後に香りナシ加工品について今後の展開について話し合い、問題点を共有した。

KEYWORD イワテヤマナシ, 香りナシ

農村部におけるコミュニティビジネス（CB）の事業化プロセスと評価

伊藤 菜月（神戸大学大学院農学研究科学生）
中塚 雅也（神戸大学大学院農学研究科教授）
清水 夏樹（神戸大学大学院農学研究科特命准教授）

地域課題の解決のために、従来のまちづくり協議会から独立し、事業化をおこなうことが必要と考えた。本研究では、まちづくり協議会からCBとして独立し、活動を継続している事例を取り上げ、事業創出からCBとして事業化した経緯、事業創出と衰退の危機を脱した要因、CBとして事業化したのちの課題と効果を明らかにした。

KEYWORD コミュニティビジネス, 地域運営組織, 地域課題解決

産後のマイナートラブルと生活習慣に関する調査研究事業

小野 玲　（神戸大学大学院保健学研究科教授）
向所 真音（神戸大学大学院保健学研究科学生）

産後女性を対象としたアンケートを実施し、2016年からの7年間の調査で、産後4ヶ月1230名、産後10ヶ月940名の参加を得た。調査内容は主に産後のマイナートラブルであり、産後4ヶ月と10ヶ月に対してそれぞれ、腰痛有症率は51%と43%、尿もれの有無は26%と14%、抑うつ有りが7%と11%であった。また結果は郵送で個別に返却した。

KEYWORD 産後, マイナートラブル, 腰痛骨盤痛, 抑うつ, 尿もれ

2 地域人材育成

食農コープ教育プログラム

実践農学入門（履修者：35名）

2022年度は古市地区の農家に弟子入りし、農作物の栽培やむら仕事を体験しました（5回）。また、体験から得た知識をもとに、地域の課題解決に向けた提案を考えるためのワークショップを含む校内学習を3回実施し、1月に地域で成果発表会を開催しました。

農作業を体験
各受入農家さんに教わりながら、黒大豆や野菜の栽培作業を年間を通じて体験しました。

地域の方との交流
地域の環境や暮らし、農業の課題などについて、農家さんとの対話の中で直に学びました。

成果発表会
体験から学んだことをもとにグループワークをおこない、イノベーティブな視点で地域課題の解決策を提案しました。

fandacoop

実践農学（履修者：32名）

調査やプロジェクトに実際に参加し、農村地域における課題解決に寄与する取組や施策の企画立案、試行をおこないました。2022年度に実施した5グループのうち、丹波篠山エリアでは「楽市楽座」「カヤ場でビジネスを起こそう」「むらの広報企画」の3つのプロジェクトで実践に取組みました。

楽市楽座プロジェクト
草山地区の秋の味覚祭り「楽市楽座」の企画運営に参加し、大学生ならではのアイデアをもりこみました。

カヤ場でビジネスを起こそうプロジェクト
草山地区で原風景であるカヤ場を再生し、カヤを活用したオブジェを試作しました。

むらの広報企画プロジェクト
城北地区で特産のクリ・黒豆などの販売PR方法を提案しました。

篠山イノベーターズスクール

（第7期履修者：35名）（第8期履修者：29名）

実践を通しての学習プログラム

CBL

丹波篠山を舞台にした地域プロジェクト実践を通じて、地域ビジネス実践者に、その技術やノウハウ、理念などを学ぶ学習（Community Based Learning）です。限定8名の少人数制で、スクール生それぞれのビジネスモデルのヒントになるプログラムを設計しています。

セミナー

大学教員や実務家による講義形式のセミナーです。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講義の一部はオンライン併用で実施しました。対話と事例を重視しながら、地域でビジネスや活動をおこなう上で必要とされる、基礎的な理論や考え方を学べます。全6つのセミナーが開講され、スクール生は、各自のテーマや興味関心に合わせて３つのセミナーを選択・受講し、ビジネス創出に必要な基礎知識や手法の習得を目指します。

食と農の流通とマーケティング
岸上 光克
和歌山大学食農総合研究所 教授

ビジネスモデルデザイン
岡田 明穂
一般社団法人関西dラボ 代表理事
ビジネスモデルイノベーション協会 理事

農村イノベーション
中塚 雅也
神戸大学大学院農学研究科 教授

起業のためのファイナンス
忽那 憲治
神戸大学大学院 経営学研究科 教授

地域の成り立ちと構造
横山 宜致
兵庫丹波の森協会丹波の森研究所 専門研究員

コピーライティングとデザイン
二階堂 薫
コピーライター

s_inno_school
sasayamainnovatorsschool
https://school.tscapital.jp

3 活動・情報支援

セミナー・イベント開催
193件

久しぶりに現地会場で開催した第3回丹波篠山研究発表会は、80名を超える来場者があり、活発な情報共有、ネットワーキングがおこなわれました。篠山イノベーターズスクールでは、セミナーやCBL、オープントークなどのイベントが開催されました。

視察件数
5件

単なる施設や活動の視察だけでなく、具体的な連携の提案や相談に来られる方が増加中です。大学と地域との連携拠点としての機能が広く認知されてきています。

相談件数
128件

地域内外の方々から、起業や移住に関する相談、イベント企画や地域活動についての多くの相談がありました。神戸大学以外の大学生や地域の高校生にとっても、丹波篠山市での研究・活動の相談の窓口となっています。

施設利用件数
520件

農村イノベーションラボのコワーキングスペース開放、丹波篠山フィールドステーションの登録制シェアオフィスなど、多くの方が利用しやすい仕組みを試行しました。

学生活動団体

丹波篠山市内で実施されてきた実践農学入門や実践農学を履修した学生たちが自主的に活動をつづけています。

地域密着型サークル　にしき恋
2022年度はコロナによる制約からも少し解放され、多くの農家さんのもとで農業ボランティアをおこないました。また、農業以外にもオオヤマルシェや小学生・中学生との交流を通して、様々な形で地域の方々と交流を図りました。にしき恋のファーム作業でも、たくさんのメンバーの協力によって収穫した、黒枝豆・枝豆を販売し、完売しました。

国際農業サークル　AGLOC
AGLOCは、農業と国際交流という2つのコンセプトを併せ持つサークルです。メインの活動として、月1・2回ほど丹波篠山市において農業ボランティアを留学生と共に実施しました。他にも地域イベントの運営や地元の小学生との交流、留学生の城下町観光のガイドをするなど様々な活動をおこないました。

多世代交流拠点サークル　Luonto
神戸大学を中心とした大学の学生が集まり、アグリステーション丹波ささやまと連携して、学生カフェの開設に向けた施設内DIYやメニュー開発、農業のお手伝いをおこないました。そのほか、丹波篠山市内では、こども縁日やマーケット出店などのイベント、市外では神戸市灘区の成徳まつりのお手伝いをするなど幅広く活動しました。